

歴史まちづくり活動 概要シート

情報提供内容	<input checked="" type="checkbox"/> 活動グループ紹介(組織紹介) <input type="checkbox"/> 活動紹介(具体的な活動事例紹介)		
カテゴリー (複数チェック可)	<input checked="" type="checkbox"/> 建物単体 <input checked="" type="checkbox"/> 地域・まちなみ <input checked="" type="checkbox"/> 調査・研究 <input checked="" type="checkbox"/> 保存・利活用 <input checked="" type="checkbox"/> 活動・イベント <input checked="" type="checkbox"/> 災害復旧 <input type="checkbox"/> その他		
キーワード	笑顔		
ブロック名	建築士会名	支部(地域会)名	
関東甲信越	神奈川県建築士会		
グループ概要			
活動団体名	まちづくり委員会 スクランブル調査隊(部会)	連絡先住所	横浜市神奈川区松ヶ丘 35-705
代表者名		TEL	090-1437-7954
シート作成者	内田美知留	E-mail	uchida@lunapark.co.jp
活動開始年	平成 7 年	URL	http://www.kanagawa-kentikusikai.com/iinkai/gijutsu/scramble/
備考	かながわヘリテージマネージャー協会、横浜洋館付き住宅を考える会(YYJK)など		
活動人数	(17名)		

■HISTORY:

スクランブル調査隊は、歴史的建造物の好きな会員 3 名により平成 7 年(1995)頃から任意の活動として行っていた。平成 10 年(1998)より部会として活動。

以来、神奈川のみならず、全国からの相談を受け、可能な限り現地に赴き、歴史的建造物に関する悩みや相談を聞き、客観的に調査を行い建物の価値の特定などを行ってきた。

私達の報告書により、解体を免れた建物も存在する。(横須賀市、万代会館など)

■活動:

普段は、月ごとの定例会、街歩き、公開講座の企画・実施、内部での勉強会などを行っているが、ここ 3 年はコロナ禍のために、活動は縮小している。以下、順不同であるが活動を記す。

- ・連合会や市町村からの要請などによる悉皆調査・存否調査への協力。
 - ・歴史的建造物に関わり、研鑽を積んできた建築士として、文化庁の平成 29 年委託事業である「近現代建造物緊急重点調査」に隊員が個人として協力。
 - ・「その他条例」を近県に広める「出前講座」も過去に 4 回ほど行ってきた。(長野県小諸市など)
その際、各都市の行政マンや設計士達との情報交換やその都市のまち歩き・歴史的建造物視察など。
 - ・建物の文化財登録や相続税ソリューション、用途変更などの協力(鎌倉市 S 家など)。
 - ・広島県福山市の鞆の浦にある隊員の実家の調査協力など。
 - ・被災建物や解体決定建物などの問題解決・解体前建物調査協力(鎌倉市峰動物病院など)。
手壊しによる 1 棟解体にも協力。(大磯町、三井守之助別邸)
 - ・特に神奈川のモーガン建築には自邸を始めとして深く関わり続けている。
 - ・藤沢宿の店蔵などの調査、その建物を活用し続けている人々の応援(プレイヤーとしても)。
 - ・軍に関わりの深い横須賀市の戦時中の軍の施設などの視察、富津市金谷の石切り場視察と報告書作成。
- かつて東京や神奈川で多く使用された房州石(凝灰岩系)繋がり、千葉の金谷の石切り場の視察や石工さん達へのヒアリングや報告会も行った。真鶴町の本小松石(安山岩系)や鎌倉石(凝灰岩系)など、神奈川の石についても研鑽。箱根湯本には、美しい緑色の本小松石を内装にふんだんに使った元旅館がある。小松石は、小田原城や江戸城の改修にも大量に使われた。
- ・災害復旧のための調査に関しては、数人の隊員が文化財ドクターとして、震災後の東北に赴いた。
 - ・神奈川では、私達が関わっていた歴史的建造物が多く火災にあったため、焼損調査等に協力。
モーガンの自邸に関しては、着々と再建に向けて歩んでいる。
 - ・HM 養成講座協力。神奈川で県が HM 養成講座を始めるにあたり、実際に始まる 1 年前から受講し、講座開始後は中心となって協力。調査隊の全員がヘリテージマネージャー修了生であり、隊員の中には宮大工等も存在。
 - ・YYJK や大学など他団体との連携も図っている。(以下■建物調査参照)

※以前の活動が「議事録」と言う形では残っていないため、まとめるのが難しい。報告書として残っているものもあるが、大半は雑然とした資料である。今後、システムティックにまとめることが課題。

■最近の活動 1・・・本の出版:

コロナ渦の最近の活動としては、「歴史的建造物探訪」(神奈川の歴史的建造物を訪ねて:初めの1歩)という本の出版である。(希望者には現在頒布可能)

これは、「建築士」の出版に合わせて発行する、神奈川独自の「さろん」という小冊子に、スクランブル調査隊が不定期に掲載していた読みやすいコラムをまとめたものである。2008年9月～2021年3月末、30号を記念して作成した。(HP参照)次はいつ発行できるのだろうか。

■最近の活動 2・・・建物調査:

コロナ渦のため、活動数が少なかったが、久々にこの夏、鎌倉の「大佛次郎邸」の調査記録と紹介文が「さろん」に掲載される予定である。大佛邸は、残念ながら先月人知れず解体された。

これは、「よこはま洋館付き住宅を考える会(YYJK)」と、建築士会の「スクランブル調査隊」のコラボ調査として2021年に行われた。今後、その時の報告書、写真等は横浜市「港の見える丘公園」にある「大佛次郎記念館」にパネル展示される予定である。



目次

※ 巻録「歴史的建造物文化財」

№.1 グリーンハウス 2020年建築家選集・・・1

№.2 磯高・山下邸留地遺跡 その1・・・2

№.3 磯高・山下邸留地遺跡 その2・・・3

№.4 鎌倉8邸 (佐野邸)

2001年鎌倉市景観遺産建築物・・・4

№.5 秩父丸上邸敷・のぐみゆり園

2005年建築家選集・・・5

№.6 カトリック片瀬教会司教館跡・・・6

№.7 大磯駅前洋館 (田ノstrandカサゼン)

2012年建築家選集・・・7

№.8 鎌倉8家住宅 (飯井家住宅) 2014年建築家選集・・・8

№.9 鎌倉敷地宅・・・9

№.10 横浜東洋住宅協会館

「新」近代館跡・トモ建築事務所・・・10

№.11 ハリス物産館・・・11

№.12 藤原藤氏民の家 (旧後藤邸前分館)

2010年建築家選集・・・12

№.13 伊豆家住宅 2014年建築家選集・・・13

№.14 北鎌倉明治邸・・・14

№.15 日吉田邸・・・15

№.16 旧栗原邸 2013年建築家選集・・・16

№.17 社会名流邸・・・17

№.18 鎌倉倉庫立役遺跡・・・18

№.19 横浜物産名匠大船元所

2020年横浜物産建築家選集・・・19

№.20 鎌倉の歴史・・・20

№.21 鎌倉近代館跡・・・21

№.22 月山堂遺跡 (旧館) 2016年建築家選集・・・22

№.23 月山堂遺跡 (後編) 2016年建築家選集・・・23

№.24 鎌倉8邸 (吉岡邸) 2017年建築家選集・・・24

№.25 旧村田家住宅 茅ヶ崎町指定重要文化財・・・25

№.26 知地邸 2017年建築家選集・・・26

№.27 野村邸 横浜市指定重要文化財・・・27

「新」近代館跡・トモ建築事務所・・・28

№.29 五十嵐商店 2017年建築家選集・・・29

№.30 藤原藤氏民の家 (旧後藤邸前分館)

建築物のその後・・・30

あとがき

歴史的建造物探訪

初めの一歩

巻一 ぶらり

神奈川の歴史的建造物を訪ねて

(一社)神奈川建築士会 スクランブル調査隊

出版料: 冠野啓希 提供

【本書の出版: 建築士会 会報「建築家選集」(2021年9月号)に併せて発行された『初めの一歩』の内容を補完するために編纂するシリーズです。】

第53号 SALON でシリーズ終了した後を受けて、スクランブル調査隊が「新・建築探訪シリーズ」として書籍することになりました。内容は歴史的建造物に限り、スクランブル調査隊メンバーが関わった、探訪した歴史的建造物の紹介です。冊子ではありません。

【発行所: 建築士会 会報「建築家選集」(2021年9月号)に併せて発行された『初めの一歩』の内容を補完するために編纂するシリーズです。】

新・建築探訪シリーズ

歴史的建造物探訪について

(一社)神奈川建築士会の会報『SALON』に掲載されていた「建築探訪シリーズ」は、2002年(平成14年)に創刊、50周年を記念して発行された『初めの一歩』の内容を補完するために編纂するシリーズです。

第53号 SALON でシリーズ終了した後を受けて、スクランブル調査隊が「新・建築探訪シリーズ」として書籍することになりました。内容は歴史的建造物に限り、スクランブル調査隊メンバーが関わった、探訪した歴史的建造物の紹介です。冊子ではありません。

2020年9月発行の第54号から2021年1月発行の第58号まで39冊の紹介をしたことになります。2020年3月頃から、コロナ渦で探訪も家訪問もできなくなりました。そこで、この機会に歴史的建造物探訪をテーマに単行本にまとめることになりました。『SALON』を刊行している建築士会委員会の推薦を得て編集にかけられました。13年をわたっているため、建物も必ずしも書籍当時のままではありません。巻末に「建築物のその後」として記載しました。非公開の建物もありますが、機会があれば掲載だけでも紹介できたいです。(スクランブル調査隊)

地域貢献度	★★★★	活動を通じた課題や展望	多くの活動が単純な調査で終わることなく、生きた活用につなげるべき。業務時間とのバランス問題や社会情勢・経済・法の壁撤去。また、単に法規などに精通するのではなく、歴史的建造物を扱う経験豊かで正しい建築士の位置・ステイタス等のアップも図りたい。所有者、活用者が何を望んでいるか知るべきである。
建築士会関係度	★★		